

液体の色がにおいの感じ方に及ぼす影響

○牛腸ヒロミ* 高木史恵* 板倉正弥** 勢畑章子** 小見山二郎**

(*聖徳栄養短大 **実践女大)

【目的】 本研究は布、紙、液体などの色がにおいの感じ方に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。今回は、白、黒を含む8つの色の液体のにおいの官能検査を行った。

【実験】 ガラスの瓶に100mlの赤、オレンジ、黄、緑、青、紫、白、黒の着色液をいれ、この液体ににおいが普通に感じられるようにシナミックアルデヒド、ローズP、シトロネロール、シトラール、リモネン、カルボン(10%流動パラフィン、10 μ l)、 α -ピネン、 γ -デカラクトン、ペリラアルデヒド(1%同、20 μ l)、トリメチルアミン(0.28%水溶液50 μ l)、イソ吉草酸(0.1%同20 μ l)を加えてサンプルとした。これを各色10人のランダムに抽出した女子大生に嗅いでもらい、においの感じをSD法で記述させた。結果を因子分析法により解析した。

【結果】 (1) 11因子までが抽出されたが、第1因子(快/不快)の寄与率は56%で、第2因子(主として色の感じ)は10%、第3因子は7%であった。(2) 第1因子への色の影響は黒が最大(73%)で赤が最も小さい(56%)。(3) 第1因子に対する色の影響は3つに分類される。①色が快/不快感に影響しない場合(1-カルボンなど)、②色が快または不快感の強さに影響する場合(α -ピネンなど)、③色によって快/不快感の逆転が起きる場合(ペリラアルデヒドなど)。このような影響の仕方は、以前に着色布と紙を用いた結果と同じであった。色はそれを担う物体にかかわらず、同じ法則の下ににおいの感じ方に影響する。第2因子は主として色の印象によって支配されているがこれ以外のものもあった。においの感じ方に色が第2因子として複合されている(下線部は結論)